

## アラカルト

青森県中小企業組合士会会長  
八戸鉄工協同組合専務理事



田中喜久男さん

*tanaka kikuo*

## 仲間と経験を通じ 新たな価値の創造を

青森県中小企業組合士会の会長、田中喜久男氏は、大規模な工業地帯や産業集積地を有している北東北随一の工業都市八戸市において、その発展を支えてきた八戸鉄工協同組合の専務理事を務めている。一方、その重責を担いながら組合検定試験制度の周知や活用にも余念がない。本制度との出会いや、組合士としての心構えなどについて伺った。

### ●組合運営にとって不可欠な制度

「組合検定試験は、現在の組合事務局に就職してから3年後、中央会からの紹介と当時の上司に勧められて受験し、昭和57年に合格しました。当初は経営関係と金融事業が主な担当職務でしたが、3つの試験科目の中の組合制度については、まだ実務経験が浅く、勉強不足であったこと等から、試験では苦勞したという思い出があります」と振り返る。

資格取得は一つの節目。合格後の業務内容や仕事意識について伺うと「合格当初は、本制度の社会的知名度も高くなく、資格を対外的にアピールするほどの高い意識は持っていなかったように思えます。また、業務上顕著な変化も見

られませんでした。われわれの業界は社会経済変動等の影響を受けやすく、さまざまな問題が発生し、その都度迅速な対応が組合運営上必要となるので、組合執行部との関係が重要となります。組合士の試験を通じて学んだことや、組合士会の研修等で得た知識、さらには組合士間の交流で培ったものが、さまざまな場面での問題解決に役立っていることは間違いありません」とその有用性を訴える。

### ●ピンチをチャンスに

組合士制度は主に個人の知識のバロメーターとも言えるが、数字や形では表せない分野でも貢献している。

「試験に合格後、待遇が改善されたという話も聞きますが、自己研鑽のため、または組合を支える、理事長をサポートするという思いを新たに非常によい機会でもありますので、前向きに頑張りたいと思います。「ピンチをチャンスに」というスポーツ等でよく使われる言葉があります。組合は多様な事業を行いますから、時には思わしくない状態（ピンチ）に陥ることもあります。組合は実務経験豊富な人々が集まる場所でもありますので、このようなピンチに陥った時こそさまざまな意見を出し合い、改善のため、またはピンチを乗り越えるための協力体制を固めることでピンチをチャンスに変えることができるものと信じています。このような時こそ、組合士会を通じて知り合った仲間や、彼らの経験が頼もしく感じられ、仕事への充実感や高揚も得られるのではないのでしょうか？」

組合士制度は日々の業務に不可欠な知識等を身に付けることができ、さらに困難を共有し、協力して乗り越えられる仲間を見つけることができる最善のツールである。今後、田中会長のように組合士としての知識やネットワーク、経験を最大限に活用できる人材が、本制度を通じて増えることを願ってやまない。